

パブリック・コメントにおける提出意見と回答

(案名：大槌町東日本大震災津波復興計画／基本計画（改正素案）)

該当箇所	番号	意見	類似意見	検討結果 (町の考え方)	決定への 反映状況
第2章 基本 目標	1.	まちの 将来像			
	1	少子高齢社会は全ての将来への維持管理費など考えると「コンパクト」な「まち」にすべき。		ご意見のとおり、将来の維持管理を考慮した効率的・戦略的な施設等の管理・運営に努め、コンパクトで持続可能まちづくりを進めて参ります。 本計画の空間環境基盤では、重点施策として「長期的維持管理の視点を導入した社会基盤・公共施設の整備」を進めるほか、経済産業基盤の基本戦略では「地域・近隣レベルの買い物・交流小拠点の形成」に取り組むこととしております。 また、新しいまちの姿として「各地域が『コンパクトなまち』を形成する都市構造の実現」を目指して参ります。	C (趣旨同一)
	2	安全で安心して・・・の2行目（P-10） ①「津波から・・・→災害から」、 ②大槌町の強みである地域の団結力・・・下線の部分の表現を工夫しては如何か。		①ご意見のとおり、空間環境基盤の重点施策として、「減災・情報伝達・避難・救援活動等に配慮した復興市街地づくり」を示し、津波に限定しないあらゆる災害を考慮した安心安全なまちづくりを推進する計画としております。 ②また、社会生活基盤の基本方針において、「支え合い誰もが暮らし続けられる地域社会づくり」とし、町民が住み慣れた地域社会で安心して暮らし続け、社会参加を通じて共に助け合えるような「おおつち型の地域包括ケアシステム」の構築や、地域の特性に応じた住民同志の連携と地域づくりを進める「コミュニティ活動」の展開促進を図って参ります。	A (全部反映)
	3	Page.10 で述べている方向性と、ここで図示されている内容の関連性がつかみづらい。少なくとも「海が見える町づくり」という大テーマがこの図に現れるはずだ。		ご意見を踏まえ、第2章の戦略策定の必要性において、4つの生活基盤の重要性を説明のうえ、それらを整備することで町の魅力が向上し定住促進が図られ、まちの将来像として掲げる「海が見えるついで散歩したくなるこだわりのある『美しいまち』」につながる関係性を理解しやすいよう、図の修正も行いました。	A (全部反映)
	4	目指す方向を明確にすると良いと考える。なぜ、「海が見える町づくり」なのか？5点、挙げられているが「海が見える町」をめざすということとの関連を理解しづらい。町としてどのような方向に行きたいのかを明確にすべき。	1		
5	本来は、このソフト面での計画を基にハード面をどうするかを決めて行くべきではないか。			これまでは迅速に復旧を進めるため、ハード面中心の事業を進めてきたところですが、今般の基本計画の改定に伴い、ソフト施策と一体でまちづくりを進めて参ります。	D (参考)

該当箇所	番号	意見	類似意見	検討結果（町の考え方）	決定への反映状況
第2章 基本目標	1. まちの将来像	6 ～大槌町は郷土愛を原動力とした「住民主体のまちづくり」を行います～ 人口流出の話はもうたくさん。大槌町は人口を減らさないためのあらゆる戦略を立て、町の存続のために闘います。大槌町が持つ「郷土愛」を「原動力」に、「際立つ個性やパワー」を「武器」として、町の子孫や、震災で亡くなった方々が喜んでくれるような新しい大槌町を築きます。		連携型重点プロジェクトとして「おおつち文化継承」、「協働まちづくり」や「コミュニティ連携」を打ち出し、自然や文化資源を通じた郷土愛の向上と、住民主体のまちづくりを推進する計画となっております。 人口流出のグラフ等については、ご意見を踏まえ本文から削除し、巻末に資料として掲載することといたしました。 また、人口減少に抗い定住促進を図るため、働く場や住む場所の確保など、4つの生活基盤に則した施策を展開して参ります。	C (趣旨同一)
	2. 復興計画改定の考え方	7 「被災した人が戻ってくる…」というのは甘い観測であり、流出した人たちは戻ってこないものとし、これ以上の人口流出を食い止める政策が必要なのではないか。		ご意見のとおり、人口流出を食い止める施策として、経済産業基盤では重点施策に「Uターン・Iターン・定住促進施策の展開」を掲げ、定住を目的とした町内への転入者に対し、住宅の建築・購入費用の一部を補助する「大槌町独自支援事業」を行うなど、4つの生活基盤に則した事業を展開することで町の魅力を高め、定住促進が図られる政策を積極的に進めて参ります。	B (一部反映)
		8 人口減少のグラフは削除してほしい。定住促進の線を入れても、住民が見るのは下降線のグラフであり、町民が失望するだけである。	1	人口流出のグラフ等については、ご意見を踏まえ本文から削除し、巻末に資料として掲載することといたしました。	A (全部反映)
		9 P58 各地域において、集落の人口など現状を具体的に知らせるべき。		現在は仮設居住者も多く人口移動が流動的なため表記しておりませんが、今後、地域毎に（仮称）コミュニティ戦略を策定する際は、ご意見を参考に検討させていただきます。	D (参考)
第3章 基本方針	1. 空間環境基盤の復興方針	10 P18 第3章空間環境基盤 役場庁舎はもっとコンパクトな施設とし、絶対安全で機能する場所に作るべき。現在の施設は体育館も含め、健康増進センターやほかの機能を備えた施設として利用する。		町方地区は、津波による浸水条件を考慮して盛土工事と区画整理事業により中心市街地として復興を進めています。役場では、津波注意報・津波警報発令時は、庁舎に災害対策本部を設置し対応することとしております。 また、3m以上の津波が予想される大津波警報が発令された場合は、中央公民館に災害対策本部の機能を確保することとしております。 役場の機能については、今後、復興事業が完了し、職員が平常時の適正な人数となった場合は、役場機能以外に保健センターとしての活用方法について検討を進め、施設の有効活用を図って参ります。	D (参考)

該当箇所	番 号	意見	類似意見	検討結果（町の考え方）	決定への 反映状況
第3章 基本方針	1. 空間環境基盤の復興方針	11 ”地域住民の主体的なまちづくり”とは、具体的にどのような施策を実施していくのかが見えづらい。		空間環境整備の重点施策として「協働のまちづくり活動に対する支援施策の展開」、また、社会生活基盤の重点施策として「住民自治組織・支援団体等の戦略的連携を図るコミュニティ協議会の開設」を掲げ、住民との協働によりソフト面からの復興まちづくりを進める復興まちづくり住民合意形成事業や、町内会・自治会・NPOなど多様な団体の連携を支援するコミュニティ再生事業など、住民主体のまちづくりを推進する各種事業に取り組んで参ります。	C (趣旨同一)
		12 P17①災害に強い社会基盤の整備 次の文章の追加を求める。 大槌町は、山に囲まれた地形とトンネルが多いために、ラジオ、防災行政無線、携帯電話等の送受信がスムーズに出来ない地域となっていることから、災害時の情報収集及び伝達、文化的な生活を送るためにも電波塔の設置など情報インフラの整備を図る必要があります。	2	実施計画に掲げる事業の中で、防災行政無線の戸別受信機の配備も含め、災害に強い情報通信インフラの整備を進めて参ります。	C (趣旨同一)
		13 P18【方針】 6行目の文章に、下線部分の加筆を求める。 町民の生命を守るため、協働による防災体制の確立を図るとともに消防・救急体制及び屋内の避難所の設置を早急に進めます。		屋内の避難所の設置については、空間環境基盤の重点施策「①減災・情報伝達・避難・救援活動等に配慮した復興市街地づくり」の具体の事業である「避難道・避難施設整備推進事業」の中で、必要性を含め検討して参ります。	C (趣旨同一)
		14 P18【方針】 8行目の文章に、下線部分の加筆を求める。 災害に強い情報システムの構築により地域の情報化を文援するとともに、大槌町の豊かな自然・景観及び野生動物に配慮した再生エネルギー等の検討を進めます。		ご意見を踏まえ、「自然や景観に配慮しつつ」と要約したうえで、空間環境基盤の一般施策「②次世代エネルギー体制の構築」の文頭に追記いたします。	B (一部反映)

該当箇所	番 号	意 見	類似意見	検討結果（町の考え方）	決定への反映状況
第3章 基本方針	1. 空間環境基盤の復興方針	防潮堤について ①自然環境や景観に関する こと（6件） ②費用面に関すること（5件） ③安全面に関すること（7件） ④整備に要す時間に関する こと（4件）	10	<p>防潮堤のご意見について、以下のとおりお答えします。</p> <p>①自然環境や景観に関することについて 新たな街の形成に向けて、大槌デザイン会議やワークショップを開催し、景観形成計画などの検討に取り組み、町の自然と新たに形成される街との共生や、街並みに調和した防潮堤など、環境や景観に配慮した計画を県に要望して参ります。</p> <p>②費用面に関することについて 県の土木部が所管している大槌川水門と小槌川水門、及び水産部で所管している大槌漁港海岸の総事業費は約350億円であり、すべて国と県の負担となっております。 維持管理については県が行うこととなっております、その費用も県が賄うこととなっております。</p> <p>③安全面に関することについて 町では、避難路整備と避難施設等の避難対応と防潮堤や防災施設を組み合わせた多重防御の発想により、人命が失われない防災性の高いまちづくりを進めております。 防潮堤が整備されたとしても、町の非常時の対応として、先ず避難する事が大前提であると考えております。 町としては、早期の住宅再建に資するため、市街地整備を終えた段階で土地利用可能としますが、緊急避難施設となる災害公営住宅の整備や、中央公民館の防災機能強化等により、安全性の向上を図って参ります。 また、安全安心なまちづくりの実現に向け、県に対して防潮堤の早期完成を要求して参ります。</p> <p>④整備に要す時間に関することについて 防潮堤整備の遅延については、昨年の第6回町方復興まちづくり懇談会で、県沿岸振興局から説明があったとおり、下記の理由となります。 ・買収予定地の相続及び抵当権の解除等に係る手続きに時間を要したこと。 ・粘り強い構造にするための検討に日数を要したこと。 ・工事発注手続き等に時間を要したこと。</p> <p>町としては、県に対し、工事の進捗を早めていただくよう、今後も要請して参ります。</p>	D (参考)

該当箇所	番号	意見	類似意見	検討結果（町の考え方）	決定への反映状況		
第3章 基本方針	2.	社会生活基盤の復興方針	16	方針に”保健・医療・福祉”の記載があるが、具体的な施策はコミュニティの話に終始しているのではないか。		重点施策の説明や事業例として、保健・医療・福祉分野も明記しております。また、一般施策として記載された事業を含め、社会生活基盤の充実に取り組んで参ります。	B (一部反映)
	3.	経済産業基盤の復興方針	17	P 2 2 産業関係者の”ヨコの連携”を取るための施策が述べられていない。		産業経済基盤の重点施策として、産官学民連携により産業の高度化を実現を図るため、異業種連携を促進することとしております。なお、具体の取り組みについては、異業種交流会やセミナーの開催などにより、産業間の連携を図って参ります。	B (一部反映)
			18	P 2 1 ①水産業、商業、工業、農林業等の産業 次の文章の追加を求める。 また、 <u>民有林では人工林を伐採した跡地に再造林しない造林放棄地がみられることから、地域材の安定供給及び内陸部での働く場確保のためにも、再造林支援の必要があります。</u>	1	経済産業基盤の基本戦略に「地域資源を活かした産業の再生と高度化」を掲げ、林業の振興に取り組む中で、再造林の必要性についても重要性を認識しておりますので、国や県の補助事業の活用を含め対応を図って参ります。	D (参考)
	4.	教育文化基盤の復興方針	19	P 2 3 ②文化活動、スポーツ活動、生涯学習等について 子供が遊べる場所やスポーツができる場所の早期の整備・設置を求める。町民も、できるところは協力したいと誰もが思っている。		社会生活基盤の重点施策に「地域住民・支援団体によるまちかどスポーツ広場や子どもの遊び場づくり」を位置付け、これに向けた住民やNPO・ボランティア団体等による活動の支援を行います。 また、教育文化基盤の基本戦略④「被災した地域施設の再生と多目的な活用」において、地域のニーズに対応した、健康づくりや体力づくり、生涯スポーツ活動を推進するための施設について、今後のあり方を検討したうえで整備することとしております。	C (趣旨同一)
20			小中一貫校にすることで、どういう方向を目指し、どういうメリットがあるのかを明確にすべき。		小中一貫校のメリットとして、以下の4項目を想定しております。 ①学習環境や人間関係の変化による、小学校と中学校の段差を少なくすることができる。 ②義務教育の9年間を見通した、継続的で一貫性のある指導体制や学習指導の工夫が可能となることで、学習内容の定着が一層図られる。 ③小学生が憧れを持って中学生を受け止め、中学生は誇りを持って生活するようになり、規範意識や思いやりなどの社会性が育つ。 ④「生き方」を基盤とした教育を推進することにより、将来の夢や希望を描き前向きに生きようとする態度や資質を育てることや大槌町の復興発展を担う人材育成が可能である。	D (参考)	

該当箇所	番号	意見	類似意見	検討結果（町の考え方）	決定への反映状況	
第3章 基本方針	4. 教育文化基盤の復興方針	21	P15 【1 空間環境基盤の復興方針】 基本戦略に、次の文章の追加を求める。 ⑥ラジオ、防災行政無線、携帯電話等の送受信困難地域の解消	2	実施計画に掲げる事業の中で、防災行政無線の戸別受信機の配備も含め、災害に強い情報通信インフラの整備を進めます。	C (趣旨同一)
第4章 基本戦略及び重点施策	1. 空間環境基盤の基本戦略及び重点施策	22	P29 ②災害への耐性、環境への配慮、長期的維持管理の視点を導入した社会基盤・公共施設の整備 4行目の文章に、下線部分の加筆を求める。 なお、海岸保全施設などの大規模な構造物の建設にあたっては、 <u>施設の目的を妨げない範囲及び草木の植栽できる箇所には、町民に親しまれる草花、サクラ等の植え込みなど、自然環境や周辺の景観などへの影響を考慮し、環境に配慮し調和した形態になるよう努めます。</u>		ご意見を踏まえ、空間環境整備の重点施策「②災害への耐性、環境への配慮、長期的維持管理の視点を導入した社会基盤・公共施設の整備」の文中に、「植栽を施すなど」の字句を追記し、自然や周辺の環境などに配慮した施設整備を進めて参ります。	B (一部反映)
		23	車道幅員が18mから16mに変更になったが、自転車の走行に支障は無いのか。また、自転車走行ゾーンをどの部分に設けるのか。		県道の幅員変更を行いました。歩道幅員が3.5m確保されるため、自転車歩行者道として整備して参ります。	F (その他)
		24	JRはBRTを提案しているが大槌町及び関係市町は山田線の復旧を望んでおり、このままでは町づくりに影響が予想される。また、復興イメージ図には山田線が明記されていないが、廃線を前提とした交通体系なのか。	1	JR山田線については、これまでJRから本町を含む沿線4市町に対し、2度にわたり鉄道が本復旧するまでの間のBRT方式による仮復旧について提案がありました。これに対し、沿線4市町では、当該方式は導入せず当該方式導入に要する費用と時間を本復旧に集中するよう要望してきました。 こうした中、先般、JRから復旧後の三陸鉄道による運行という新たな提案が出されました。本町としては、復旧後のJRによる運行について引き続き要請する一方、当該提案についても、他の沿線市町、県、三陸鉄道及び南北リアス線沿線市町村と連携しJRと協議・交渉を行っており、復興まちづくりへの影響が及ぼさないよう、早期復旧に向け、引き続き取り組んで参ります。 また、ご指摘を踏まえ、誤解が生じないように復興イメージ図にJR山田線の路線を明記します。	B (一部反映)

該当箇所		番号	意見	類似意見	検討結果（町の考え方）	決定への反映状況
第4章 基本戦略及び重点施策	1. 空間環境基盤の基本戦略及び重点施策	25	JR 山田線の復旧、大槌小国線の早期実現化、及びヘリポートの設置が必要である。	1	J R 山田線の復旧については、先般、J R から復旧後の三陸鉄道による運行という新たな提案が出されました。本町としては、復旧後の J R による運行について引き続き要請する一方、当該提案についても、他の沿線市町、県、三陸鉄道及び南北リアス線沿線市町村と連携し J R と協議・交渉を行っており、早期復旧に向け、引き続き取り組んで参ります。 主要地方道大槌小国線は、県都盛岡市と大槌町を結ぶ最短ルートであるとともに、緊急輸送道路として位置付けされており、安全かつ迅速な往来ができるよう、土坂峠のトンネル建設着手を強力に県や国に働きかけていきます。 ヘリポートの設置については、旧大槌中学校校舎跡地に建設が決定している新消防署の設置に併せて、防災ヘリやドクターヘリが離着陸可能なスペースを確保する予定としております。	C (趣旨同一)
		26	景観ガイドラインは良い方向性と思う。		ご意見をいただき、ありがとうございます。	C (趣旨同一)
		27	P 1 5 【1 空間環境基盤の復興方針】 重点施策に、次の文章の追加を求める。 ⑧情報インフラ整備の促進	2	実施計画に掲げる事業の中で、防災行政無線の戸別受信機の配備も含め、災害に強い情報通信インフラの整備を進めて参ります。	C (趣旨同一)
		28	防潮堤や湧水公園地区に「海の見える散歩道」を整備すべき。		ご意見については、今後、具体的に公園等を検討する際に、参考とさせていただきます。	C (趣旨同一)
		29	防潮堤上又は小槌橋脇の伸松山頂に、大幅な潮位変化を知らせる赤色パトランプ又は警報装置を設けてはどうか。		ご意見については、今後の防災計画や防災対策を講じる上での参考とさせていただきます。	D (参考)
		30	地域で作った防災計画を基本計画に反映させる制度を戦略的に使う必要がある。		先行して策定された地区防災計画については、今年度見直しを進めている町の地域防災計画に反映させております。 今後も各地域で策定される防災計画について、同様の取り扱いをして参ります。	C (趣旨同一)
	2. 社会生活基盤の基本戦略及び重点施策	31	健康優良老人の表彰や長寿・金婚夫婦など、大いに健康奨励運動を行うべき。		ご意見をいただいた趣旨については、今後、健康づくりの事業を検討する際の参考とさせていただきます。	D (参考)
		32	健康増進により病院通院者を減少させ、医療費の削減を果たすべき		ご意見のとおり、医療費の削減のため、一人ひとりの健康の保持増進を図る必要があると考えており、多様な主体による健康づくりや介護予防の活動、生きがいづくりのための活動促進など、健康づくり事業に取り組んで参ります	C (趣旨同一)

該当箇所	番号	意見	類似意見	検討結果（町の考え方）	決定への反映状況	
第4章 基本戦略及び重点施策	2. 社会生活基盤の基本戦略及び重点施策	33	町内には自治組織が無い地域があり、今後の「まちづくり」において不都合が想定されるため、行政主導で各町内の自治組織立上げやコミュニティの復活を急ぐ必要があるのではないか。	1	社会生活基盤の重点施策「⑤仮設住宅から復興市街地へのコミュニティ移行支援・復興市街地におけるコミュニティ再生施策の展開」において、地域のコミュニティ組織の新たな立ち上げや、既存のコミュニティの再生を積極的に支援することとしております。 また、事業例に掲げた「コミュニティ移行支援事業」では、災害公営住宅における入居者のコミュニティ形成と、既存の自治会等との融合を支援して参ります。	C (趣旨同一)
		34	P 3 2 ② 公営住宅に集会場を作ることをのみを示しているように見えるが、ハード面のみならず、ソフト面（コミュニティをどのように育成するのか？）が重要であると考えます。また、災害公営住宅内のコミュニティと元々の地域住民とのコミュニティの融合を図る必要がある。			
	35	P 3 3 ② 災害公営住宅には要支援状態である高齢者等の住環境を整備することで共同仮設住宅からの移住を促進し、おおつち型地域包括ケア体制の充実を図るべき。また、連携する主体に「自治会」の追加を求める。	1	ご意見については、地域包括ケア体制の構築に向けた今後の参考とさせていただきます。 また重点施策①の中で、連携する主体として「自治会」を位置付けております。	D (参考)	
	36	P 3 4 想定される事業例に、「おおつち型地域包括ケア・災害公営住宅・サポート体制・保育施設・高齢者施設等の複合的施設整備の促進」の追加を求める。	1	ご意見の趣旨については、「重点施策②災害公営住宅整備事業等を活用した多目的集会施設のコミュニティ生活圏への整備」における「多目的集会施設」に含まれております。 また、整備の方向性については、「おおつち型地域包括ケア体制」の中で検討して参ります。	D (参考)	
	37	P 3 5 ボランティア、NPO、行政、住民の合意を考えるべき。		社会生活基盤の重点施策として、各地域の町内会・自治会、NPO・ボランティア団体等がコミュニティ形成や地域の活性化に向けた情報共有と活動の連携を図ることを目的としたコミュニティ協議会の開設を目指すこととしております。	C (趣旨同一)	
38	～町民の個性や女性パワーを大いに活用する町～ 大槌は「濃いキャラ」が多く、女性が強い町。まちづくりで大いに活躍してもらいます。町のPRを行う「濃いキャラ」には町から助成金を出し、頑張る女性のための癒しの場を設けます。	1	特定の性別に限定した計画は記載していませんが、社会生活基盤の重点施策として「コミュニティづくり、ケア体制づくり、地域福祉等に関わる各種助成金・財源等の包括的運用」を図ることとしており、具体の事業を行う際は、ご意見を参考とし、町民の個性を活かし町の活性化につながる運用を検討して参ります。	D (参考)		

該当箇所	番号	意見	類似意見	検討結果（町の考え方）	決定への反映状況
第4章 基本戦略及び重点施策	2. 社会生活基盤の基本戦略及び重点施策	39	～人との出会いや交流が盛んな町～ 町民同士、町内外の方同士の出会いや交流が、町のあちこちで生まれる町にします。町内各地に井戸端会議できる場を設け、その一つとして、入浴施設（温泉または銭湯）の建設を目指します。	1 ご意見については、社会生活基盤の重点施策にある「身近な店舗や集会施設・広場が集まる近隣小拠点の整備」の中で、集会所や広場など、気軽に集い交流が図られるスペースの確保を進めて参ります。 また、具体の施設のご提案については、同じく社会生活基盤の基本戦略に「健康増進施設の整備を目指します」と明記し、実現に向けて検討して参ります。	B (一部反映)
	3. 経済産業基盤の基本戦略及び重点施策	40	P 3 7 1) 基本戦略 ② 町内の求人情報をハローワークからだけではなく、町からの情報として町民・町外民に情報を与える機関を設置してほしい。	釜石・大槌地域の求人情報につきましては、毎週木曜日に町ホームページに掲載・更新しているほか、町内各所でも配架しており、町外に一時避難されている方々向けには求人情報を月2回直接お送りするなどの対応をとっておりますが、ご意見につきましては、今後の更なる施策検討の参考とさせていただきます。	D (参考)
		41	基本計画改定素案にある「若者・よそ者」の具体像がない。	「よそ者」を「町外の人」と表現を修正いたしました。 「若者」とはまちの将来を担う10代後半～20代の人材を想定し、「町外の人」とはU・Iターン者を含めた、町外からの転入者を表現したものです。	D (参考)
		42	P 3 7 ③ 2行目の文章に、下線部分の加筆を求める。 ～の中で大槌町がその拠点地域の一つとなつて多くの方が訪れるよう、 <u>キャッチ・フレーズを「防災を学び、自然・産業体験のできる町」</u> として観光振興を図ります。	まちづくりの将来像として「海が見える、つい散歩したくなる、こだわりのある「美しいまち」を大きなキャッチフレーズとしており、重点施策ごとのキャッチフレーズの表記は予定しておりません。 なお、ご提言いただきました「防災を学び、自然・産業体験のできる町」の実現に向けては、復興ツーリズムや体験型観光イベント事業などの具体的な事業展開の中で、関係機関とも連携を図りながら具体化させて参ります。	D (参考)
		43	観光産業や6次化をめざす際には、マーケティングを行いターゲットを方向付けた方が良く考える。	具体の事業の実施に当たっては、目的を明確にすることが大切であり、また事業を行ったことによる成果を評価し、次の事業に反映させていく必要があります。 ご提言の趣旨につきましては、事業の実施に当たって十分留意して参ります。	D (参考)

該当箇所	番号	意見	類似意見	検討結果（町の考え方）	決定への反映状況	
第4章 基本戦略及び重点施策	3. 経済産業基盤の基本戦略及び重点施策	44	P 3 7 ④観光拠点は～ 以下のように、加除することを求める。 観光については、従来の沿岸地域を中心としたものだけでなく、町が有する広大な森林を含めた魅力的な観光資源の発掘を図り、観光客が訪れ、体験や宿泊、買い物などができる施設の整備と合わせ、町の特徴を活かした観光地となるよう遊歩道等の関連施設の整備や風景づくりに努めます。また、宿泊施設「ホワイトベース大榎」については、主な復興事業が終了した際においても、修学旅行など各種団体を受け入れる宿泊施設として存続を目指します。	1	ご提言を踏まえ、以下のように修正致します。 「町の魅力の発信につながる観光資源の発掘と併せて、観光客が訪れ、体験や宿泊、買い物などができる観光拠点施設を整備します。また、町の特徴を活かした魅力ある観光地となるよう、周辺環境の整備や風景づくりを進めます。」 なお、ホワイトベース大榎の項目につきましては、今後の参考とさせていただきます。	B (一部反映)
		45	P 3 8 2) 重点施策 【想定される事業例】に、次の文章の追加を求める。 ・人口林伐採跡地に再造林等の森林整備支援		ご意見のとおり、森林の事業は伐採で完結するものではないことから、種々の制度を活用した対応を検討して参ります。	D (参考)
		46	P 3 7 ④ 観光拠点等の「拠点」の削除を求める。観光については、拠点を設けず必要なところに整備すべき。		観光客が訪れ、体験や宿泊、買い物などができる「観光拠点施設を整備」と修正いたしました。 ご意見のとおり「拠点」につきましては、限られた場所や既存の観光資源にとどまらず、「町の魅力の発信につながる観光資源を発掘」していくことと併せて進めていく必要があると考えます。	C (趣旨同一)
		47	P 1 5【3 経済産業基盤の復興方針】 起業を考えている人向けの勉強会・セミナーなどを企画してほしい		関係団体と連携し、専門家派遣事業などを活用して、開催を検討して参ります。 なお、国や県などが主催する既存のセミナーなどもございますので、広報紙やホームページなどを通じてご案内して参ります。	D (参考)
		48	P 3 8 2) 重点施策 ③ 仮設住宅の空室を有効に活用する方法を検討してほしい。		町では、応急仮設住宅の空室の柔軟な利用が図られるよう、これまで国や県に対し、入居要件の緩和等の弾力的運用について要望を続けておりましたが、平成 26 年 2 月 1 日に根本復興大臣が来町された際、被災者以外の者の入居も考慮した「応急仮設住宅の目的外使用」について認める旨の説明がありました。 運用基準は設置主体の県が判断する事となりますが、内容が確定次第、空き住戸の活用について柔軟に対応して参りたいと考えております。	C (趣旨同一)

該当箇所		番号	意見	類似意見	検討結果（町の考え方）	決定への反映状況
第4章 基本戦略及び重点施策	3. 経済産業基盤の基本戦略及び重点施策	49	P39 ⑤ Uターン・Iターン者に対する情報提供は本当に行われているのか。また既に住んでいる者が定住し続けるために講じている施策はあるのか。		経済産業基盤の重点施策として、「Uターン・Iターン・定住促進施策の展開」を掲げ、今後、移住希望者に総合的な情報提供等を行うとともに、働く場所や住まいの確保、教育や子育て環境の整備など、定住を促進するための支援策を一体となって推進して参ります。	C (趣旨同一)
		50	P39 ⑥ 5行目の文章に、下線部分の加筆を求める。 町内の豊富な地域資源の活用を図り、イトヨや湧水など大槌町ならではの資源を活かした観光メニューの開発、伝統芸能等のイベントの企画をはじめ、町が有する <u>広大な森林の利活用を含めた、新たな観光資源の掘り起こしに努めます。</u>		ご提言いただきました森林の利活用につきましては、本項の「町内の豊富な地域資源」に含まれるものとして、ご理解願います。	C (趣旨同一)
		51	高齢者の生きがい対策として、ブランド商品開発生産に関連する「刺し子プロジェクト」も組み入れたい。		ご提言いただきました内容につきましては、具体のブランド化の事業を進める過程において、ご参加いただけるようお声をかけて参ります。	D (参考)
		52	大型ドームの「海の駅」へ町内外の客を集約する。		現時点では、「大型ドーム」や「海の駅」の整備計画はございません。 ご提言の趣旨につきましては、今後の参考とさせていただきます。	D (参考)
		53	新防潮堤と周辺や城山などに魅力的な名前の散策道を設ける。同時に、大槌の見どころ、観光、美味しい物等を体験できるプログラムを整備することや、自転車等での観光も考慮すべき。	1	散策道の整備については、具体的な計画は予定されておりませんが、自転車なども活用した体験型の観光プログラムにつきましては、町内の関係者とも協議を進めてまいりたいと考えております。	D (参考)
		54	内陸からの観光客を「三陸ジオパーク」認定の沿岸部への誘導が必要。	1	基本計画では、産業経済基盤の重点施策に「大槌の自然・文化・観光資源の再発見」、「観光戦略を推進する広域連携体制の構築」を掲げ、自然を活かした観光の推進に注力して参ります。 実施計画においては、ジオツアー企画やジオガイド人材育成等を実施することにより観光客等の交流人口拡大を目的とした、「三陸ジオパーク推進事業」に取り組んで参ります。	C (趣旨同一)
		55	サテライト・オフィスのような拠点を首都圏に設けるなど、町外に向けた経済活動が重要である。		拠点の設置は予定しておりませんが、首都圏など町外への販路開拓といった取り組みにつきましては、物産のブランド化やPR事業などと合わせて県などの関係機関の制度を活用することで、商談会への参加など具体の事業を進めて参ります。	D (参考)

該当箇所	番号	意見	類似意見	検討結果（町の考え方）	決定への反映状況	
第4章 基本戦略及び重点施策	4. 教育文化基盤の基本戦略及び重点施策	56	P 3 8 町の立地上、産業の誘致は難しいのではないかと。		産業の誘致は、民間企業の経済活動との兼ね合いであることから、実現に至るまでは大変困難な部分もありますが、一方では、既にある大槌の産業や企業の活性化につながるほか、新しい産業分野の開拓、そして雇用が生まれることで、若者の定住や安定して就労できる環境づくりを進めることができます。 つきましては、大槌の産業構造に合った、末永い事業継続を見通すことのできる産業の誘致を進めて参ります。	F (その他)
		57	～郷土愛を大事にする町～ 「大槌町を変えよう」、「大槌町をもっと良くしようと頑張る町民を、町を挙げて応援します。郷土愛あふれる方を表彰する場を年1回設け、授賞式を行います。		教育文化基盤の重点施策として位置付ける「小中一貫教育校の整備」や、「地域のコミュニティ活動と連携した教育の推進」を推進する中で、地域への愛着を持った人材の育成に努めて参ります。 ご意見にある、具体の事例については、今後、事業を展開していくうえでの参考とさせていただきます。	D (参考)
		58	役場庁舎の遺構を活かした防災教育の徹底が重要。		教育文化基盤の重点施策「⑤震災体験・防災文化を継承し、自然・文化資源を再発見・再生・継承育成する町民活動の展開」の中で、震災体験を継承し防災文化についての理解を深めるための取組を検討することとしており、ご指摘の通り、震災遺構の活用も含め、震災体験・文化を子どもたちに継承して参りたいと考えております。	C (趣旨同一)
		59	P 4 3 ⑤ 以下のとおり文章に加除を求める。 ・次世代の町民・期待している他地域の沿岸住民のために、防災文化についての理解を深めながら、震災体験を継承し、講座や講演会などの開催、ガイドブックの作成等を進めます。		震災体験の継承は次世代を含む町民に向けたものであり、ご意見の「次世代の町民のため」という表現の趣旨は、本文中に含まれるものと解釈いたします。 「他地域の沿岸住民のため」という表現につきましては、まずは町民が防災文化についての理解を深めることが先に必要であるとの考えのもと、本文への明記は控えさせていただきます。	C (趣旨同一)
		60	想定される事業例の1行目に下線部分の加筆を求める。 ・震災の記憶と旧役場を含めた継承施設の整備		教育文化基盤の基本戦略に示す「震災体験・防災文化の継承」において、ご意見にある具体の遺構保存を一つの選択肢としつつ、実施計画において「震災記憶継承施設整備事業」を掲載し、犠牲者の鎮魂と震災津波の記憶を未来永劫に継承していくため、鎮魂の森、震災遺構の整備に取り組んで参ります。	C (趣旨同一)
		61	P 4 0 大槌町を冬期間のスポーツ合宿地とし、スポーツ交流の拡大を図るべき。	1	教育文化基盤の基本戦略に「スポーツ活動の活性化」を掲げ、更に、重点施策④被災した地域施設の再生と多目的な活用の中で、「スポーツ・レクリエーション施設の検討・整備」、同じく重点施策⑥として「スポーツ活動を担う人材の育成」に取り組むこととしております。 ご意見につきましては、これら施設整備や人的要素を勘案しつつ、今後、検討する際の参考とさせていただきます。	D (参考)

該当箇所	番号	意見	類似意見	検討結果（町の考え方）	決定への反映状況	
第4章 基本戦略及び重点施策	4. 教育文化基盤の基本戦略及び重点施策	62	町特有の自然財産を生かし共生することが、人口流出の緩和や、交流人口の拡大に有効である。		ご意見については空間環境基盤の基本戦略で示す「風景再生のための景観形成ガイドラインの策定」において、美しい風景を再生・創出することで町全体の魅力向上を目指すとともに、「おおつち文化継承プロジェクト」では、自然・文化資源を再発見・再生・継承育成するような町民主体の活動を推進することとしております。 また、産業経済基盤の戦略の中で、それらの自然を活かした地域ブランド化による観光戦略を推進し、交流人口の拡大を図り定住促進つなげる施策も推進して参ります。	C (趣旨同一)
		63	(仮称)大槌メディア commonsの充実により大槌の郷土愛を育むべき。		教育文化基盤の重点施策に「(仮称)大槌メディア commonsの整備とデジタルアーカイブ等の活用」を位置付けており、今後、ご意見のとおり、郷土愛の醸成に寄与する文化・情報の拠点施設として検討を進め、整備に努めて参ります。	D (参考)
		64	フォートブラッグとの交流は継続した方が良い。教育文化基盤でまったく触れられていないのは残念である。		ご意見を反映し、文化教育基盤の重点施策「⑥文化・スポーツ活動を担う人材の育成」の中の事業として「国際理解教育事業」を推進し、子どもたちの視野を広げることを目的に、フォートブラッグ市との交流を促進することとしております。	A (全部反映)
		65	P40 教育文化基盤 海、山、川などを有する大槌は自然教育の先進地となる可能性を持っている。外部から教育旅行を受け入れる基盤づくりをすべきである。	1	経済産業基盤の重点施策⑥において、「観光戦略を推進する産官学民連携体制と広域連携体制の構築」を掲げ、観光物産協会運営補助事業などの関連する事業を推進しつつ、教育旅行の受け入れに伴う基盤の整備を検討して参ります。	D (参考)
		66	～町のソウルイベントである「祭り・餅まき・運動会」を中心とした町～ ①祭りを町最大のイベントと位置付け、観光の要とします。 ②集客に欠かせない餅まきがたくさん行われるような、景気のいい町にします。 ③地域の団結力強化に欠かせない運動会は、「地区ごと」と「地区対抗」の2段階で行います。		ご提案いただいた個別の事例については、実現可能性を含め検討して参ります。	D (参考)
		67	～音楽活動が盛んな町～ あらゆる世代、あらゆるジャンルの音楽活動を応援します。「音楽ホール」の建設を目指します。		教育文化基盤の基本戦略に「文化・スポーツ活動の活性化」を位置付け、実施計画における「文化芸術の公演・交流支援」事業により、文化芸術活動を側面から支援する体制を整えます。 音楽ホールについては、整備が予定されている(仮称)大槌メディア commonsの活用方法を含めて検討して参ります。	D (参考)

該当箇所		番号	意見	類似意見	検討結果（町の考え方）	決定への反映状況
第4章 基本戦略及び重点施策	4. 教育文化基盤の基本戦略及び重点施策	68	P40 教育文化基盤 学生の中に起業家を育成できるような仕組みをつくる。大槌は食資源が豊富なことから、食を学ぶ学校のようなものがあつたらよい。漁師や農家などが先生となり、生産の現場から商品のブランディングまで一連で学べる場も有効である。		小中学生に対しては、基本施策「①教育環境の再生・強化と「ふるさと教育」「防災教育」の展開の中で、主体的に自己実現を図ることができるよう「ふるさと科」の実施に取り組むと記載しております。その中では、ワカメの収穫から加工・販売までの一連の作業を学ぶコースが設けられるなど、地域の産業を学び理解を深める取り組みも行われているところであり、今後もこうした取り組みを進めて参ります。 また、高校生に対しての取り組みについては、主体である県に働きかけを行うとともに、関係者の方々の協力をいただきながら、ご提言の趣旨に沿うような取り組みを検討して参ります。 このほか生涯学習の一環として、高校生以上を対象とした経済を学ぶ講座を開設しております。本事業も町民の起業意識向上に寄与するものと思われ、今後も関係者の協力のもと継続的な運営に努めて参ります。	C (趣旨同一)
	5. 連携型重点プロジェクト	69	各プロジェクトを具体的にどのように連携させるのかが見えない。今でも各プロジェクト、団体、業者がそれぞれの考えで復興に取り組んでいるが、その連携不足を感じる。		ご意見を踏まえ、関係各機関が更に情報共有を深める場の構築を検討しつつ、各プロジェクトが相互に密接に連携し、効果的な事業運営が図られるよう努めて参ります。	D (参考)
	6. 新しいまちの姿	70	P50 新しいまちの姿 中心市街地を浸水域である町方に再生するのはなぜか。後世のために浸水域になちを再生すべきではない。浸水の心配がなく、今後、人口増加が見込まれる寺野や沢山地区が妥当ではないか。 町民参加のまちづくり条例に沿い、住民が自分事としてまちづくりに参画できる具体的な施策が必要。	2	町方地区は、住宅再建意向調査の結果等から、元の場所に居住したい方が多く、歴史的にも大槌町の中心地としての位置付けがあるため、平成23年12月に地域復興協議会によってまとめられた東日本大震災津波復興計画では、従来のまちの形態に配慮しつつ、防災性の向上したまちづくりを進めていく事としております。	D (参考)

該当箇所		番号	意見	類似意見	検討結果（町の考え方）	決定への反映状況
第4章 基本戦略及び 重点施策	6. 新しい まちの 姿	71	P52⑤仮設住宅等の跡地 北小跡地（きらり商店街） の活用方法として、役場、図 書館の配置はどうか。 仮設住宅の土地所有者の 農家の意向を踏まえた柔軟 な対応を望む。	1	役場庁舎については、行政機能を復旧させるため、比較的早期に復旧できる大槌小学校跡を仮庁舎と位置付け、既に改修をおこなったところでは、 図書館については、町方地区の御社地周辺に、商業施設や他の公共施設と合わせて一体的に再建する計画としております。 大槌北小学校跡地利用については、現在の復興事業の進捗を見据えながら、今後、町民の皆様の意見を伺いながら検討していきたいと考えております。 仮設住宅が建設されている用地については、元の状態でお返しすることとなります。 宅地等への転用については、具体の計画の有無や、その他要件があるため、各々の事案に応じた対応となります。	D (参考)
		72	P51 第4章 2) 土地利用 現在、仮設住宅に利用している農地は集約して宅地などに速やかに転用できるような制度にしてほしい。 逆に浸水域のエリアと換地することで、安全な住宅地の確保、集約した農地整備による集団営農の促進、小槌川下流域の湧水を利用した付加価値の高い営農が見込まれる。 がれき処理場は、かさ上げによる宅地や、商業用地として利用すべき。	1	農地転用等の制度は法律で規定されているため、町で変更は出来ませんが、柔軟に対応できるよう復興庁等に要請しています。 農地の集約化につきましては、地権者や営農者の意向を踏まえて対応していく必要があるものと考えております。 頂いたご意見については、今後の参考とさせていただきます。	D (参考)
		73	P51 住宅地、集落の機能についてもっと具体的な機能を発表すべきである。医療機関、買い物場、学生の通学の方法等、もっと生活に必要な疑問に答える必要がある。		住宅地、集落の機能については、第4章の地域別の復興イメージ図で示しております。 また、ご意見にある生活に必要な疑問については、第3章のそれぞれの項目の中で方向性や具体の事業例を明記しております。	C (趣旨同一)
		74	P53②道路・交通ネットワークの整備 4行目に次の文章の追加を求める。 <u>さらに、県立大槌病院から三陸縦貫道へ直接アクセスできる道路について、患者の緊急搬送や寺野・桜木町・花和田の町道が災害で交通不能となった際の小槌川上流部の災害時の進入道路として活用するために、県立大槌病院から町道南側の山腹に整備実現を図ります。</u>		現在のところ、そのような計画はありませんが、ご意見の趣旨と同様の効果を生むものとして、三枚堂大ケロトンネル構想の早期実現に向けて、国や県に対し継続して要望を行って参ります。	D (参考)

該当箇所		番号	意見	類似意見	検討結果（町の考え方）	決定への反映状況
第4章 基本戦略及び 重点施策	6. 新しい まちの 姿	75	P 5 2 スクールバスを一部活用し、町内を巡回するルートで1時間に1本を運行させたらどうか。(9:00～15:00ならば可能なのでは?)		寺野地区の開発に伴い町営運動場、テニスコートの取り壊しが行われることにより、学校行事・授業変更への対応・部活動の送迎等、不確定な要素が多く、現状では臨時の要請に対応するのが精一杯であり、ご意見については、今後の参考とさせていただきます。	D (参考)
		76	P 5 2 交通ネットワーク 現在JR側の山田線の取り扱いについて議論になっているが、BRTではダメなのか。		JR山田線については、これまでJRから本町を含む沿線4市町に対し、2度にわたり鉄道が本復旧するまでの間のBRT方式による仮復旧について提案がありました。これに対し、沿線4市町では、①運行頻度の向上などは、現行の路線バスによる振替輸送でも対応可能であること、②専用道の区間が短く、国道45号と並走するか、国道45号より遠回りなルートで、定時性や速達性において優位性が認められないこと、③仮復旧とはいえ、当該方式を整備するためには相当の費用と時間を要すると考えられることなどを理由に、当該方式導入に要する費用と時間を本復旧に集中するよう要望してきました。 本町としては、他の沿線市町、県などと連携し、鉄道による早期復旧に向け、引き続き取り組んで参ります。	D (参考)
		77	高齢者、障がい者等にとって重要な移動手段を確保するため、ボランティア等を活用し、タクシー等と共存可能なシステムの構築が必要である。		公共交通については、交通ネットワークの考え方の中で、誰もが移動しやすい交通環境をつくり、町民バス等を中心に利便性の高いネットワークの形成を図ることとしております。 ご意見につきましては参考にさせていただきます。	D (参考)
		78	①寺野に大槌病院 大槌高校に小学校と中学校 その中間の山 高台に町作る ②交通手段 ケーブルカーで結ぶ ③ケーブルカー 大槌のシンボルにする (原文のまま)		①住居の移転先も概ね決まりつつある中で、現時点では実現性が低いものと考えております。 ②③費用対効果から、現実的ではないと思われれます。	D (参考)
		79	P 5 3 ②道路・交通ネットワークの整備 トンネル及び、道路の整備に関しては地域住民と十分対話しながら進めていってほしい。		三枚堂大ケロトンネル構想が具体化した場合は、町民や議会のみなさまのご意見を参考にして事業を実施して参ります。	D (参考)

該当箇所		番号	意見	類似意見	検討結果（町の考え方）	決定への反映状況
第4章 基本戦略及び重点施策	6. 新しいまちの姿	80	盛土により湾内に直接流出していた湧水が堰き止められ、町方の土地が液状化することが懸念される。その上にまちを作ることになるといことを住民に説明すべきである。		町方地区の自噴する湧水に関する調査において、自噴井は地下約30m以深に存する地下水が被圧により自噴しているとの調査結果が出ています。 今回の盛土は、そこまで影響を与えるものにはならないと考えており、住宅を建てるには十分耐え得る整備を行って参ります。	D (参考)
第5章 地域別の復興まちづくりの方向性	4. 沢山・源水・大ケ口地域	81	P61(2)復興方針に沢山地区集会所の建設を明記して頂きたい。地域住民の活動の拠点となる集会所の建設は不可欠である。		沢山・源水・大ケ口地域の復興イメージにおいて、公共施設用地として示された場所を建設予定地として、検討を進めて参ります。	B (一部反映)
		82	P61(2)復興方針 小中一貫校の道路整備に伴う水路及び既設生活道路の切り回し工事は不手際ないよう進めてほしい。		工事施工に際しましては、地域のみなさまの安全に十分配慮して対応致します。	D (参考)
	8. 浪板地域	83	P65 「・新しい住宅地は、既存集落に～災害公営住宅を含めオーシャンビューが望める住宅にすることで将来的に他地域からの～」とあるが、実際の整備区域は三陸沿岸道路の法面にあたっているため、オーシャンビューは望めない。復興イメージ図を使用することで、町は地域住民の希望通り整備を進めるものと受けとめられる。 浪板海岸近くの低地については、計画通り観光資源を生かし、人の集まる場所として整備してほしい。木を植えて日陰を作り、キャンプ場やBBQを楽しめるような工夫をすべき。 高齢者やひとり暮らしの方々が安心して住める住宅の早期整備を望む。		応急仮設住居での生活を余儀なくされている被災者の方々へ、1日でも早く新しい居住地を確保すること、及び、災害時の三陸縦貫道へのアクセス道確保を優先し、地域のみなさまと協議を重ねながら計画を進めているところ。 復興イメージ図については、現在の計画に沿ったものに変更いたします。 また、低地利用については、ご意見のとおり観光資源を有効活用し、賑わいが戻る地域を目指し今後も地域のみなさまと検討を進めて参ります。 なお、災害公営住宅の設計・建築する際には、階段や段差など移動時の安全性の確保、介助のしやすさなどに着目したバリアフリーの工夫など高齢者等への配慮、近隣住民が見守りしやすい建物配置等、ひとり暮らしの方にも配慮した早期の整備に努めて参ります。	D (参考)

該当箇所		番号	意見	類似意見	検討結果（町の考え方）	決定への反映状況
	その他	84	寺野に商業系市街地の表示があるが、今はその話は無くなった。図から無くしてほしい。		土地利用計画の変更に合わせて、復興イメージ図を修正しました。	A (全部反映)
		85	各地域別の話し合いでまとまった意見を一同にシェアする場を設け、地域の活性化につなげるべき。		コミュニティ連携プロジェクトとして、住民自治組織・支援団体等の戦略的連携を図るコミュニティ協議会の開設に取り組んで参ります。	C (趣旨同一)
		86	三陸ジオパークや環境省の潮風トレイルを町民が案内できるようにすべき。	1	三陸ジオパーク推進協議会と連携し、ジオガイド研修会を開催するなど、ガイド養成に向けた取り組みを検討して参ります。	C (趣旨同一)
		87	各地域で防災について勉強会を開催したり、避難訓練を早期に実施することが重要である。		ご意見をいただいた趣旨については、今後の参考とさせていただきます。	D (参考)
第6章 計画の 推進方 策	1. 町民と 行政と の協働 による 復興ま ちづく りの推 進	88	P 6 8～住民向けの意向調査の実施や～ 同じようアンケート調査が行われることに疑問。 町民一人ひとりにIDを配布し、町のHP上に設けた掲示板で意見交換ができると良いのではないかと。		同趣旨のアンケート調査が行われていることについて、今後は庁内の各部局間で相互に情報共有を図りつつ解消に努めて参ります。 IDを利用した掲示板での意見交換につきましては、大槌町は県内でもインターネットの普及率が低いことなどを鑑み、現段階では対応が困難であると考えます。	D (参考)
	2. 国、県 や市町 村との 連携に よる施 策の開 展等	89	P 6 9～更なる支援職員の受入れなどによる組織体制の強化が不可欠です～ これ以上「支援職員」を増員するのではなく、地元職員を新規採用し育てていくことが、これからの町づくりや町の運営・維持を行っていくうえで重要なのではないかと。		地元職員の育成は重要な課題ですが、後年度負担などを踏まえると、復旧・復興事業に要するマンパワーは他の自治体等の応援職員や任期付き職員により確保せざるを得ない状況です。 今後は、復興後の財政状況や職員の年齢構成などを踏まえながら、適切に地元職員の採用計画を検討して参ります。 また、研修等を通じた職員のスキルアップによる組織体制の強化もあわせて進めて参ります。	D (参考)

該当箇所	番号	意見	類似意見	検討結果（町の考え方）	決定への反映状況
計画全般について	90	ハード面、ソフト面の同時進行を。		これまでは迅速に復旧を進めるため、ハード面中心の事業を進めてきたところですが、今般の基本計画の改定に伴い、ソフト施策と一体でまちづくりを進めて参ります。	C (趣旨同一)
	91	一部の声の大きい方や地域の権力者に左右されない芯を示すべき。それが街の復興を加速させることにつながり、町外の人を惹き付ける一番の肝にもなると思う。	1	ご意見を踏まえ、空間環境基盤に示す「協働の地域まちづくり活動」において、地域における住民主体の協働の町づくりを推進して参ります。	A (全部反映)
	92	「心」がない。石にかじりついてやる、やりましよう、という意気込みが感じられない。	1	巻頭の町長あいさつ文の中で、「未来へ引き継ぐ大槌の心意気」、「大槌の風土と歴史に根差した創造」、「未来の大槌の子供たちへの創造」、「共に支え、そして歩む大槌」、「希望の大槌への展望」という題名のもと、町民のみなさまへ向けた強いメッセージを発信しております。	
	93	「定住促進」を目的にしているといいつつ、ふたをあけてみると「中ぶた」が多すぎて、直結していない。「復興に必要な4つの基盤の実現のため」とあるが、定住のための施策というより、お年寄りが安らかな余生を過ごすことを主にした内容と思われる。定住促進にはまず生業、10年先を見据えた意味では教育が必要。福祉やコミュニティ形成は、それらをさらに下支えするものである。		ご意見を踏まえまして、第2章の戦略策定の必要性において、4つの生活基盤の重要性を説明のうえ、それらを整備することで町の魅力が向上し定住促進が図られ、まちの将来像として掲げる「海の見えるつい散歩したくなるこだわりのある『美しいまち』」につながる関係性を理解しやすいよう、図の修正も行いました。 また、ご意見にある生業や教育の必要性、下支えする福祉コミュニティ分野の戦略や施策については、各基盤毎に整理し詳細に記載しております。	F (その他)
	94	町長が掲げる「住民主体のまちづくり」を前面に打ち出してほしい。		本計画の重点施策から選定した8つのプロジェクトは、町民主体・町民共助、地域住民組織・外部組織等との連携を前提としたものであります。 中でも、「協働まちづくりプロジェクト」や「コミュニティ連携プロジェクト」など、ご意見のとおり、住民主体のまちづくりを前面に打ち出した計画であると認識しております。	C (趣旨同一)
	95	基本計画ではあるが、数値目標のような具体性を持った書き込みがなく「逃げ」の計画になっている。年間何人の雇用を増やすのか、転出者を何人受け入れられる態勢をつくるのか、そしてそれはだれが担うのか等の記載がない。		本計画は、復興期間と位置付ける平成30年度までの大方針と方向性を示すものであり、数値目標についてはお示ししておりません。	D (参考)

該当箇所	番号	意見	類似意見	検討結果（町の考え方）	決定への反映状況
計画全般について	96	復興までどうしても時間がかかるが、その間、町民が厳しい現状に耐えられるような計画にしてほしい。	1	町民の生活を支えるための4つの生活基盤（空間環境、社会生活、経済産業、教育文化）を早急に整備し、まちの魅力を向上させることで定住促進を図るなど、町民が大槌町での生活し続けられる施策を講じて参ります。	D (参考)
	97	大槌ならではの計画にしてほしい。	1		
	98	町民の目に触れる冊子は分かりやすく、これを見たら「この町で頑張ってみようかな」「役場と安心して付き合っていこうかな」と思える書きぶりにしてほしい。 7、8割の会議を傍聴したが、その時に受けた印象に対し、明文化したものは、かなりバイアスがかかっている。たとえば温泉。「造ります」とは言えなくとも、せめて将来への検討課題として整理をすべきであり、もし本当に実現できそうなときは、それを根拠に進めることが出来る。		冊子の文章表現については、いただいたご意見を踏まえ、町民のみなさまに分かりやすく読みやすい表現となるよう修正しました。 また、みなさまから頂いたご意見は可能な限り本文に明記し、町民の声を反映した計画策定に努めたところです。 「温泉」につきましては、社会生活基盤の基本戦略②の文中にある「健康増進施設」の整備を検討する中で、実現の可能性を含め考慮して参ります。	D (参考)
その他	99	街にある資源を元に企業誘致やまちづくりを進める事が独創性につながる。 『こだわりのあるまちづくり』の『こだわり』を明確にすべき。この街は、豊かな森林が生み出す生態系や栄養豊かなすばらしい水が財産。この資源を元に企業誘致に成功していることを町民が理解していない。だからこそ、この部分をきちんと伝える形の計画を示してほしい。		ご提言にありますとおり、ここ大槌にある多様な資源を活かした企業誘致は、既に大槌にある産業の活性化につながり、また当地域に適した特性を持つ産業は、安定した経営が可能となり、ひいては安定した就労の場の確保につながります。 今後の企業誘致の進め方につきましては、ご提言の趣旨を踏まえ、参考とさせていただきます。	D (参考)
	100	大槌を再建するために町内外からの協力を求めるのもひとつの方法、町の自治体には考えもつかないようなプランがでることも考えられる。 土地利用については地権者だけでなく、そこに関連のある人たちが一堂に集まって話し合いをする方が良い。		本計画の理念の一つとして「支援団体や企業との連携」を謳い、NPOや大学の関係者、ボランティア等、町内外の方々との連携・協力を積極的に推進して参ります。 特に「コミュニティ連携プロジェクト」では、住民自治組織や支援団体等の戦略的連携を図るため、コミュニティ協議会の創設を計画しております。 土地利用に関する話し合いについても、必要に応じ関係する個人や団体と連携を図りながら進めて参ります。	C (趣旨同一)
	101	吉里吉里フィッシュアリーナに飾られていた郷土芸能の壁画（3枚）を保存していただけないものか。		壁画についてはコンクリート面に直接描かれたものであり、港湾管理者である県としては、新しい施設を整備する際に撤去せざるを得ず、保存は難しいとの見解です。	F (その他)

該当箇所	番号	意見	類似意見	検討結果（町の考え方）	決定への反映状況
その他	102	時間経過と共に「一日でも早く元の所に戻りたい」気持ち大きくなり、時間と手続きの煩雑な「提案」には疑問を覚える。		ご意見のとおり、一日も早い復興を目指して、効率的な計画の運用や事業の実施に努めて参ります。	F (その他)
	103	パブリックコメントを大切にすべき。また、まちづくりにアンケートの回答を反映させるべき。	1	ご意見のとおり、町民のみなさまの声は重要であり、いただいたご意見を計画に反映させたまちづくり、町政運営に努めて参ります。	F (その他)
	104	民意を得ようとする仕組みや方法をもっと考えるべき。パブリックコメントにおいても、周知やネットの活用が十分ではない。	1	ご意見を真摯に受け止め、今後の対応を進めて参ります。	
	105	分科会の声の集約の仕方が恣意的		決してご意見の様なことはなく、可能な限り参加者の声を集約した計画であると考えております。	F (その他)
	106	役場内での情報共有をしっかりと行い、縦割り行政を大槌から廃止する。		ご意見のとおり、情報共有を図り効率的な行政運営に努めて参ります。	F (その他)
	107	防災無線で各会議の案内をしてはどうか。広報の手段充実のためモバイルサービスも配信してはどうか。		ご意見を参考とし、必要に応じて各種会議の案内を行うとともに、モバイルサービスによる情報提供のサービス向上についても努めて参ります。	F (その他)
	108	「まちづくり」に関して、町民の参加が少ないと感じる。役場と住民の対話の場を多く設けるべき。	1	参加者を増やすための方策と対話の場のあり方について、より一層の改善を図って参ります。	F (その他)
	109	復興計画関係の会議の参加人数が少ない。参加しない住民から委任状をとるべきだ。	1		

備考1 「類似意見件数」欄については、類似の意見をまとめて公表するときに当該類似の意見の件数の記入に用いるものとし、それ以外の場合は削除するものとします。

2 「決定への反映状況」欄には、次に掲げる区分を記載するものとします。

区分	内容
A（全部反映）	意見の内容の全部を反映し、計画等の案を修正したもの
B（一部反映）	意見の内容の一部を反映し、計画等の案を修正したもの
C（趣旨同一）	意見と計画等の案の趣旨が同一であると考えられるもの
D（参考）	計画等の案を修正しないが、施策等の実施段階で参考とするもの
E（対応困難）	A・B・Dの対応のいずれにも困難であると考えられるもの
F（その他）	その他のもの（計画等の案の内容に関する質問等）

3 意見（類似の意見をまとめたものを含む。）数に応じて、適宜欄を追加して差し支えありません。

4 計画等の案の項目区分に応じて、適宜表を分割して差し支えありません。